



遠大勵志

日報キャビネコンテスト

6月のテーマ「2020年の初夏」

【岩手日報6/29記事より】

日報キャビネコンテスト6月の課題「2020年の初夏」には147点の応募があり、岩手日報社編集局で審査した結果、5点の入賞が決まった。

【1席】「楽しくて楽しくて」 達下才子



(選評)

暑い日曜日、公園の噴水で水浴びを楽しむ子どもたち。縦横無尽に動く水の間から、子どもの楽しそうな表情がのぞいた瞬間を捉えた。水が止まりきらず、わずかに流れる絶妙のシャッター速度が光る。

5点の入賞の中に、本校の生徒と先生の2人が入ったことは本当に素晴らしいことです。最終予選通過作品に2人が入ったこともまた嬉しいことでした。おめでとうございます。今後の写真部の活躍、さらに期待しています！！

【2席】「大丈夫、きっと今年だけ・・・」谷地星(2年)

(選評)

このところ、日増しに暑苦しさを感じ始めたマスク姿。息ができるのか若干の疑問を感じるが、ぬらしたマスクに小さな扇風機で風を当て、わずかな涼を求める姿がコロナ禍の夏を象徴している。



【最終予選通過作品】

☆「幻想」 吉田悠馬(3年)



☆「新樹光を浴びて」 下平花歩(2年)



教育実習(2週間)終了

6月16日から2週間の予定で教育実習に取り組んでいた高橋怜雅先生(保健体育、1年5組、ラグビー部)が6月29日で終了しました。下の写真は、29日(月)に1年1組での授業研究の一コマです。あっという間の2週間だったと思います。この経験を是非とも残りの大学生活に生かしてほしいと思います。お疲れ様でした。



【高橋怜雅先生より】

この教育実習を乗り切ることができるか不安でした。実際に一人の先生として、やるべきことがたくさんあり、実習が始まってからも不安は続きました。しかし、分からないこと、慣れないことがたくさんある日々は、自分の今までの生活にはなかった新鮮なもので、本当に多くのことを経験することができました。私の好きな諺に「人間万事塞翁が馬」というものがあります。簡潔に言えば、「幸や不幸は予測しがたい」ということです。一見幸せに見えることが実は不幸であったり、その反対もあるということです。私にとって実習の始まりは大変でしたが、終わってみるととてもよい経験ができたと思っています。苦労は人を成長させます。これからも挑戦して、たくさんの経験を積んでいきたいと思います。2週間、短い間でしたがお世話になりました。

県 U18サッカー開幕 (高校総体代替大会)

【6月28日 岩手日報記事より】

サッカーの2020県U18大会第1日は27日、盛岡市のつなぎ多目的運動場などで1, 2回戦が行われた。今大会は中止となった県高校総体の代替大会として実施している。

(本校は、高田松原運動公園第一サッカー場で対戦)

【1回戦】 黒沢尻北 1-0 水沢工業

・得点者 及川真弥(2年)

【2回戦】 黒沢尻北 0-8 花巻東

黒沢尻北・吹奏楽部

演奏できる時間楽しく大切に

【6月30日 朝日新聞記事より】

雨の校舎に楽器の音色が響く。黒沢尻北高校の吹奏楽部が、教室ごとに分かれて練習をしていた。

7年連続で全日本吹奏楽コンクール東北大会に出場する強豪校。大舞台で演奏することを目標に入部する生徒も少なくないが、コンクールは新型コロナウイルスの影響で中止になった。「全国で輝きたかった」。そう話すのは部長の水野悠来さん(3年)。小学校からホルンを始め、中3のときのコンクールでは金賞をとった。楽しそうに演奏する先輩の姿をみて、黒北への進学を決めた。

1年では銀賞、2年のときは銅賞。今夏の部の目標は「東北大会金賞」に決めた。そんな矢先の中止の知らせに「立ち直るのに時間がかかった」と話す。

これから何にモチベーションを見いだせばいいのか、3年生で話し合った。「コンクールは部活の全てなのか」「なくなったからといって部活をやらない理由にはならない」。議論するなかで、まだ残っている舞台のために気持ちを切り替えようと思えた。

6月は例年なら、コンクールに向けて厳しい特訓を重ねる時期だ。しかし今年は、パートごとの練習や合奏など普段通りの練習が続く。それでも、「向上心は下がっていない。むしろ演奏できることが楽しいと思うようになった」と水野さん。コンクールに懸けてきたが、音楽そのものの魅力に気づけたという。

夏に予定されていた全国高校総合文化祭(総文祭)も会場での演奏が見送られたが、各校が撮影した動画をウェブ上で公開することになった。

引退までの残り約2ヶ月。「楽器が吹ける時間を大切にしながら、一日一日を大事にすごしたい」

